opusdei.org

年間第2週・土曜日 15. 喜び

年間第2週・土曜日 15. 喜び 一喜びの源は神との父子関 係。一十字架と喜び。悲し みの原因。手段。一喜びの 使徒職。

2024/04/02

年間第2週・土曜日

15. 喜び

- 喜びの源は神との父子関係。

- 十字架と喜び。悲しみの原因。手段。
- 一喜びの使徒職。

15. 1 神の子の喜び

世界が創造主の手で最初に生じた 時、すべてのものは善に満ちてお り、それは、人類の創造で頂点に達 しました。¹しかし、悪が罪と共に この世に入り、人間の本件に雑草の ように根づいてしまいました。真の 喜びは、常に善に結びついています が、マリアが受諾し、神の御ひとり 子が胎内に宿ったまさにその日に地 上にもたらされました。深遠な喜び でマリアは満たされていました。な ぜなら、マリアは原罪なく宿られ、 御父と御子と聖霊である神に一致し ておられたからです。神の計画に愛 をこめて応え、マリアは、この世の 新しい幸福の源になられました。こ れこそが、イエス・キリストが、マ リアをとおして生まれた理由です。

キリストは、御父、天使、人類の完全な喜びであり、神の御心にかなったものです²。マリアの使命は、当時も今もご自分の息子、イエスを私たちに与えることです。だから、聖母を、喜びの源と呼ぶのです。

数週間前、天使が羊飼いに告げた知 らせについて黙想しました。「恐れ るな。わたしは民全体に与えられる 大きな喜びを告げる。今日、ダビデ の町であなたがたのために救い主が お生まれになった」³。あらゆる矛 盾や苦しみにもかかわらず持ち続け る真の喜びは、それぞれ異なった状 況の中で神に出会い、神に従うこと を見出した者の喜びであり、御子イ エスを腕に抱いた時の年老いたシメ オンの溢れる喜びです⁴。 これは、 博士たちが、イエスとマリアとヨセ フのところに導く新しい星を見たと きの大いなる喜び⁵です。これは、 ある日思いがけずイエスを目の当た りにして出会った人々すべての喜び

です。どうしてあの男を連れてこな かったのですか? 祭司長とファリサ イ派の人々は、多分律法に従わな かったために捕らえられ、仕事を 失った下役たちに聞きました。「今 まであの人のように話した人はいま せん|⁶と彼らは答えました。これ は、タボル山でのペトロの喜びで す。「先生、わたしたちがここにい るのはすばらしいことです」⁷。落 胆した弟子たちが、イエスだと認め たときに再び知った霊的喜びと同じ です⁸。 弟子たちが、復活したイエ スに出会うたびに経験する大きな喜 びでもあります⁹。 このすべての喜 びの中にマリアの喜びがあります。 「わたしの魂は主をあがめ、わたし の霊は救い主である神を喜びたたえ ます」¹⁰。マリアは、イエスを完全 に所有します。その喜びは、どの人 の心にある喜びよりも大きなもので す、

喜びとは、命の豊かさから直接溢れ 出たものです。一人ひとりについて 言えば、この豊かさは、とりわけ知 識と愛から生じます11。 限りない憐 れみによって、神は、イエス・キリ ストにおいて私たちを、神の子とさ れました。神の本性を分けられ所有 するものとされたのです。そのこと が、まさに命の豊かさと言えるので す。つまり、無限の知識、無限の愛 の豊かさです。恩恵をとおして神の 子とされたことによるほど大きな喜 びはありません。それはいつまでも 続く喜びであり、病気や失敗にもか かわらずやり通すことができるとい う喜びです。「あなたがたは、心か ら喜ぶことになる。その喜びをあな たがたから奪い去るものはいないし 12と主は、最後の晩餐で約束なさい ました。神に近づけば近づくほど、 より多くの神の愛と生命を共有しま す。神の子として成長すればするほ ど、喜びがもっと大きくなり、もっ と自分のものとして気がつくほどの

ものとなるでしょう。普段の振舞いは、快活なものですか? 積極的で楽観的ですか? 妨げや失敗が生じたとき、快活さを簡単に失いますか? 憂鬱な考えによく負けますか?

15. 2 十字架と喜び、悲しみの原 因。手段。

この真の喜びは、物質的な幸福、健康(何と儚いものでしょう!)、気分(簡単に変わる!)、一時的に困難や不足がないという幸福とは、何と違うことでしょう。私たちは神のと違うことでしょう。死そのものさえも私たちを苦しめることはありません。

聖パウロは、フィリピの信者に、喜びの根拠を思い出させています。「主において常に喜びなさい」。聖パウロは言います。「重ねて言います。喜びなさい」¹³。 そして直ちにその理由を彼らに示しました。「主は、すぐ近くにおられます。困難

な、常に厳しく、時にはひどく攻撃 的になる生活状況の中で最高の治療 を提案します。喜べ!」。この命令 は、聖パウロがこの手紙を書いた 時、牢に閉じ込められていたことを 考えるとますます賞賛に値します。 他の大変困難な状況の中でも、彼は こう書きました。「わたしは慰めに 満たされており、どんな苦難のうち にあっても喜びに満ちあふれていま す | ¹⁴。もし、喜びが本物であれ ば、私たちをとりまく状況は、決し て不変で決定的なものではありませ ん。というのは、喜びというもの は、義務を果たしたり十字架を受け 入れたりする際、神への信仰に基づ いているからです。病気で滅入って いるとき、不正義な脅迫に出遭った り、その残酷さに苦しんだりすると き、どうしたら快活でいることがで きるでしょうか? 快活は、当てにな らない錯覚や無責任な現実逃避の手 段ですか? 否! その答えをくださ るのは、キリストです。キリストだ

けです!キリストにおいてのみ、私 たちは、自分自身の生命の真の意義と人類史を解くて、 を見出します。キリストにおいて、 を見出します。キリストにおいて、 を見出します。 キリストの教義において、そして の教義において、そして の教義においての秘跡に現存 のが、教会の秘跡にでの が、教会においての でいる贖いの十字架においての とってより 世界をより良い場所、神の似姿る場 る人間にとってより価値のある場 所、より幸福な所にする力を常に 出すでしょう。

 架の光を浴びている中では苦しみや不安はありません。なぜなら、私たちは、愛は苦しみをとおして示されることを理解しているからです。これは愛の真理、神とすべての人々への愛の真理です1.。

旧約聖書で、神はすでにネヘミヤを 通してお話しになりました。「悲し むな!| 預言者は言いました。「主 の喜びは、あなたたちを支える力で ある」16。これは真理です。喜び は、私たちが勝利を勝ちとるために 助けとなる最も力強い味方の一つで す¹⁷。 喜びは、素晴らしい治療薬で あり、すべての悪に効く特効薬で す。罪、生温さ、神を知ることに気 が進まないこと、自分だけのことを 考えるわがままによって以外は、神 から私たちが離れることはなく、私 たちはこの喜びを、失うことはあり ません。つまり、苦しみ、病気、失 敗、妨げ、計画のやむにやまれない 変更、屈辱など様々の形で私たちに

降りかかる十字架を受け入れないと きにのみ喜びは失われるのです。憂 鬱は、自分と周囲の人々に大きなきを与えます。ですから、憂鬱はなければならなずにしなければならな事にしなければならな事がら、悲しみを のある植物と言えます。「魂を追い せなさい、心を慰め、悲しみを追い 払え。悲しみは多くの人を滅ぼし、 何の役にも立たない」¹⁸。

もし私たちがどのように心を開き、 話し、心を押しつぶしていることを 発散するやり方を知ってさえいれ ば、状況が心配の原因になりがちな 時はいつでも、喜びを取り戻すこと ができます。祈りに頼ること、ま た、罪を深く悔い改めて告解に行く ことは、喜びを取り戻す最も効果的 な方法です。特に、罪を犯したり、 神との関係を疎かにしたりして喜び を失ったのであれば、非常に効果的 です。その治療は、自分を忘れるこ と、自分自身のことを過度に心配し ないように心がけることです。要す

るに、謙遜です。謙遜は、良い子ど もとして神に心を開こうとするとき 欠くことのできないものです。謙遜 は、真の喜びの土台を形作るもので す。信頼して祈る、つまり心から信 じて神と話せば、多分、悲しみの原 因となっているまさにその落胆を受 け入れるようになるでしょう。そし て、霊的指導で心を開く決心をする でしょう。悩んでいることを話し、 神が自分に求めておられること、 はっきりした見解に欠けるために、 捧げるのが難しいと気がついている ことを寛大に捧げる決心をするで しょう。

15. 3 喜びの使徒職

神が私たちに要求される使徒職は、 神の近くにいる喜びを他の人々に伝 えることです。この喜び自体、超自 然的、人間的喜びの溢れ出であるこ とがわかります。この幸福が、他の 人々に溢れ出るとき、希望が、楽観 主義が、そして日々の苦労の中で寛 大であろうとする力が生まれ、社会 全体に受け入れられて広がっていき ます。

ョハネ・パウロ二世は言われました。「子どもたち、もしあなたたち自身の内に、喜びと平和である神の恩恵を保つなら、人間にとって価値のあるものを築くことができるでしょう」 $\frac{19}{2}$ 。

も子どもたちや両親、兄弟姉妹と実 りある使徒職のできる楽しい雰囲気 を作り上げます。一方、私たちの人 生観が、暗く悲観的で、私たちの態 度が意地悪で偏狭であれば、自分を 人々や神から引き離し、常に新しい 緊張を生じさせ、必然的に愛徳が欠 けてきます。聖トマスはアリストテ レスを引用して述べています。「暗 い、不愉快な人に、一日中付き合っ ていられる人は誰もいない」。この ように、人は、他の人々と仲良く やっていくためには、礼儀上一定の 当然の負債で拘束されています 21 。 内向的で黙っていること、そして疲 労や個人的な心配を克服する努力 は、常に神に大変喜ばれる犠牲にな るでしょう。

私たちは、神の子としての快活さ、 楽観主義、微笑みを、仕事に、友だ ちに、近所の人々に広めなければな りません。一生のうち本当に短い時 間しか出会わない人たちにも広める べきです。二度と会わないかもしれ ない店の客にも伝えなければなりま せん。一度治って、もう病院を見た くない患者に、街で道を尋ねるため に私たちを呼びとめた人にも伝えな ければなりません。彼らは皆、ほん のわずかしか接しなかった私たちか ら、友好的な笑顔と私たちが彼らの 守護の天使に祈るその祈りを得るこ とになるでしょう。多くの人が神に 至る道を見出すのは、キリスト教的 快活さをとおしてであり、おそらく 他では決して見出すことができない でしょう。

「イエスの喜びに満ちた眼差しはどんなだろう。御母の抑えることのできない喜びに満ちた、輝くがごとき眼差しと同じはずである。『わたしの魂は主を…たたえます』。自らの胎内に受け入れ、そして、お傍で生活し始めて以来、聖母の魂は主を称え続けている。

私の母よ、あなたがそうであったように、私たちも主と共にいて、主を 手放さぬ喜びを常に保つことができ ますように」²²。

今日、マリアの傍で、誠実な決心を します。人々のため、歩み易く愛す べき道を整えよう。人生にはもとも と苦しみが付きものなのだから。

¹ 箴言8・30-31 参照

²マタイ3・17参照

³ ルカ2・10

⁴ ルカ2・29-30 参照

⁵ マタイ2・10 参照

⁶ ヨハネ7・46

⁷マルコ9・5

⁸ ルカ24・13-35 参照

- 9 ヨハネ16・22 参照
- 10 ルカ1・46-47
- 型トマス・アクイナス 『神学大全』 2-2、28, 4 et seq 参照
- 12 ヨハネ16・22
- ¹³ フィリピ4・4
- ¹⁴ ニコリント 7・4
- 15 福者アルバロ・デル・ポルティーリョ, 説教, during the Mass for participants in the Jubilee of Youth, 12 March 1984
- 16 ネヘミヤ8・10
- ¹⁷ 1 Mac3:2 et seq 参照
- 18シラ30・23
- ¹⁹ ヨハネ・パウロ二世, Address, 10 April 1979

²⁰ 聖ホセマリア・エスクリバー 『道』831 参照

2¹ 聖トマス・アクイナス 『神学大全』2-2,114,

²² 聖ホセマリア・エスクリバー 『拓』95

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-II-do/ (2025/12/15)